

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0177600244		
法人名	(株)藤惣		
事業所名	リフレッシュホーム 和みの家		
所在地	石狩市花川南10条1丁目1番12号 (電話) 0133-72-0753		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年3月17日	評価確定日	平成20年4月9日

【情報提供票より】(平成20年3月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年11月15日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	13人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.7人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費 18,000円	
敷金	有(円)	(無)	暖房費(11~4月) 7,000円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(42,000円) 無	ありの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	500円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(3月7日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.7歳	最低	63歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	まえだ森林クリニック(内科・神経内科)、村田歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

牧場を運営する法人が、介護サービス事業への思いから、牧場の敷地内にデイサービスを併設して開設されたグループホームである。広い敷地に建設されたため、和室を備えて広くゆったりとした共有空間、ゆとりのある居室、広い事務スペース及び応接室の設置、洗練された建物の外装デザインなど優れた構造の施設である。利用者の暮らしは隣接のデイサービスとの連携があり、相互にイベントへの参加や利用者の趣味娯楽での日常的な交流など楽しみながら生活を過ごしている。利用者へのケアサービスは、経験の長い管理者や、看護師を含めた職員が、利用者の思いを大事にし、寄り添いながら暖かく親しみのある関係を築いている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回外部評価で指摘された権利義務の分かりやすい表示は、各ユニット入り口に掲示し、チームケア会議の積極の実施は毎月の定例以外にカンファレンスでケアサービスが検討されている。運営理念の地域啓発やホーム機能の地域還元も運営推進会議やホーム諸行事で進められている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の結果、取り組んで行きたい項目については、ミーティングなどで管理者を中心に今後の方向性を話し合っており、事業所としての地域貢献、人材育成、包括支援センターとの協同、災害対策の町内会連携などの具体的対応策を検討中である。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、今年2月に第6回が開催されている。会議にはホーム関係者以外に町内会代表、包括支援センター関係者をメンバーとし、ホームの運営状況やホームに対する意見や、要望など意見交換のほか、毎回テーマを決めて医療制度や高齢者対策などの話し合いを行ない、参加者から好評を得ている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族のホーム来訪時に、意見・要望や苦情等を聞くようにしており、住居が遠い家族へは、電話報告などで連絡を取っている。家族からの意見などがあつた際には、毎月の定例会議やカンファレンスにおいて内容が報告され、職員全員で検討しながらケアサービスや、ホーム運営に活かすよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは町内会に加入し、お祭りやごみ拾いなど地域行事に職員や利用者が積極的に参加している。また、いも煮会など、ホーム行事に地域の人々がきてくれたり、日本舞踊やフラダンスなど、各種ボランティア来訪も頻繁にあるなど、地域住民との交流が進められている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム運営理念のキーワードは「和」であり、理念に地域との「和」も示されている。この理念のもと、各種行事への参加により相互交流が進められており、地域との連携がなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの運営理念は、新人職員への説明と、日常的カンファレンスにおいて、理念にもとづく「和」を中心としたケアサービスのあり方を話し合われており、理念を確認しながらケアが実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは、町内会の会員となっており、地域のお祭り、盆踊り、ゴミ拾いなどの行事に積極的に参加するとともに、ホームの行事へも周辺住民の参加がある。また、日本舞踊、フラダンスなどボランティアが来訪して実施しており、地域交流が活発に行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価も複数回実施のため、職員は評価の意義を理解しており、自己評価の内容も職員全員の意見のもとにまとめられている。評価の結果については、会議などで話し合いながら、内容に応じて順次改善に取り組むよう努めている。		

石狩市 リフレッシュホーム 和みの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成18年より2～3月毎に包括支援センター関係者、町内会代表を含めて開催され、意見要望をホーム運営に反映させるようにしている。また、会議では医療制度や高齢者対策などのテーマを設定してこれらの説明も行ない、好評を得ている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当部署や石狩市グループホーム連絡会にて情報交換を行なっているが、行政側からも年1回はグループホームへ状況把握のため来訪があるなど、行政との連携に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	大部分の家族が毎月1回以上の訪問があるため、その際に利用者の暮らしぶりや健康状態を報告しており、一部家族へは随時電話で連絡を取っている。ただし、「ホーム便り」は不定期の作成で、町内会への提供とホーム内掲示にとどまっている。	○	家族へ利用者の生活状況を伝えるため、ホームの行事と参加の様子の写真、個人別の「お便り」記載などを内容とする「ホーム便り」を定期的に作成し、家族へ提供することで、なお一層家族のホームに対する理解と協力が深まるものと期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情は、家族訪問時に聞くようにしており、問題事項があった場合にはカンファレンスや全体会議で検討し、改善に向けての対策を行なうなどホーム運営に反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や移動がある時には、あらかじめ早い段階からそのむねを伝えるなど、利用者の状況に合わせながら、不安などの影響が最小限にとどまるよう配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の内部研修は、新人のOJT以外に毎月の定例カンファレンスにおいて、研修を兼ねて実施されている。外部への研修参加は業務ローテーションなどの都合で参加者は少ない状態にある。	○	介護サービス事業における人材育成はケアサービスの質の向上のため欠かせない課題であり、年間研修スケジュールを作成しながら、できるだけ外部研修参加の機会を増やすことを望みたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	石狩市のグループホーム連絡会や、認知症サポーター活動に積極的に参加しており、これらを通じてほかのホームとの情報交換や施設の相互見学などを実施している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が安心してホームで暮らせるよう、事前に家族や本人とコミュニケーションを十分に取るようにしている。さらに、できるだけ本人にホームを見学してもらい、お茶を一緒にするなど、ホームに馴染めるような機会を設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、介護する側としての立場ではなく、ホーム内の食事準備、後片付け、掃除、畑仕事などの作業を一緒に行っている。また、利用者の過去経験から種々の作業を教えもらったり話し合うなど、職員と利用者がともに支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がいつでも職員へ気軽に相談できるように心掛け、思いや意向を表現できないときは、職員が利用者の立場になって考えるようにしている。また、利用者の表情や行動からも把握するようにして、カンファレンスなどの場で職員同士が検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に利用者家族や医療機関からの情報をもとにアセスメントを行ない、カンファレンスで協議しながら個別の介護計画を作成している。この計画は、家族の承認を得て日常的ケアサービスに反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、利用者の状態が観察等で安定している場合は、カンファレンスで家族からの意見要望も反映させながら検討されているものの、3～5ヵ月毎と、定期的にはなされていない。状態変化があった際には随時見直しがなされている。	○	介護計画は利用者の状態変化有無に拘わらず、3ヵ月毎の定期見直しが望ましい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者は、併設のデイサービス利用者と各種行事に共同で参加したり、デイサービスの広い浴室を利用している。広い敷地内の畑を耕したりパークゴルフに興じている。さらに、車で花見や初詣などの外出、音楽療法実施など多方面の支援が行なわれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームは内科、神経科の協力病院が、4週毎に訪問診療を行っており、外科等については、協力医療機関を通して診療を受けている。利用者の希望によっては、従来からの医療機関通院も自由であり、その場合は、家族または職員が同行して対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の入居時に、ホームとしての重度化、終末期に係る説明をしており、家族の理解を得ている。また、重度化に対する指針も作成しており、一人ひとりの状況に応じて医療機関と相談しながら対応するようになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者のプライバシーを損なわないようケアサービスに努めており、各種記録も十分に管理されている。外来者の面会簿は一覧性の表から個別記入表に直され、その後家族の要望で一覧性に戻したが、個人情報の観点から再度個別記入表に変更を検討している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて、日々利用者が暮らしやすいように支援を行なうべく職員は配慮している。利用者の要望や思いをを大事にしながら、ホームや職員の都合を優先させないように努めている。		

石狩市 リフレッシュホーム 和みの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、職員と一緒に食事の準備や片付けなどを行ない、食事中は職員が同じ食卓で同じ食事を取りながら、話し掛けたりさりげなくサポートしながら楽しく食事をともにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回以上、午後の時間帯に利用者毎の曜日を決めて入浴を行なっている。入浴拒否の利用者に対しては様子をうかがいながら、入浴時間をずらしたり、話し掛けたりしながら入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内では食事準備や掃除など役割を持ち、楽しみごとはボランティアの先生を迎えての手芸、カラオケ、カルタ、畑や花壇の手入れ、ディサービス利用者との将棋など、日々の暮らしの中で、それぞれが自分合った過ごし方をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に周辺散歩や近くの店舗へ買物に出掛けているが、車で花見、外食、お祭り見学など利用者の希望に応じて外出支援を行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関には、夜間を除いて施錠はされていない。ユニットの入口は、施錠はしていないが、ドアベルが付いており、入口付近の見通しが良いことから、利用者の出入りは分かるようになっている。		

石狩市 リフレッシュホーム 和みの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署の指導により、隣接のサービスとともに避難訓練を実施しており、救命救急訓練も実施期間にバラツキがあるが実施している。今後は地域住民と連携した避難訓練が課題となっている。	○	実際に災害が発生した際には、地域住民の協力を得ることが重要となるため、地域と一体となった避難訓練を行ないながら理解と協力を得られることを期待したい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事や水分の摂取量が記録されている。栄養摂取量も管理栄養士が分量、カロリーを計算して食事メニューを作成しておりバランスのとれた食事が提供されている。		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い敷地内に建てられたホームは、随所に余裕があり、清潔感も保たれている。施設内部は広く明るいリビングと食堂、リビングに併設した和室、十分なスペースの浴室やトイレ、季節に応じた壁飾りなど、利用者がゆったりと気持ちよく過ごせる共有空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室も広さに余裕があり、収納スペースもある。利用者は、使い慣れた調度品を自由に持ち込み、居心地良く安心して過ごせる場所となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。